

図書館だより

埼玉県立図書館

第40号

平成元年7月1日

編集 埼玉県立図書館
広報委員会

発行 埼玉県立浦和図書館
館長 栗藤一衛
浦和市高砂3-1-22
電話 048(829)2821

主な内容(童謡特集)

- | | |
|------------------------|------------------------|
| ●浦和童謡唱歌愛好会のこと……………(1) | ●本のひろば……………(5～6) |
| ●いま童謡に熱い眼差しが……………(2～3) | ●県内図書館めぐり、読書グループ紹介…(7) |
| ●随筆……………(4) | ●利用者の声、おたずねください……(8) |



浦和童謡唱歌愛好会のこと

竹内克好

かつて、童謡が全く忘れられてた時代もあった。「カラスなせ泣くの、カラスの勝手でしょ」と子供たちが無心に歌っていた。まるでそれが正しい歌詞であるかのように。

このような風潮に義憤を感じて昭和五十四年、浦和にアマチュアの童謡唱歌愛好会が生まれている。この会に私も多少縁があるが、会の雰囲気は大変すばらしい。コーラスグループのように制服はない。もっとも本来童謡は、ふだん着で歌うものだから当然といえば当然だが、またメンバーは、性別不問で小学生から七十歳代までと幅が広い。伴奏楽器はピアノだけでなく、ハーモニカ、大正琴と何でもござれである。細知事や、長島商工会議所会頭も、この会の魅力に引き込まれて一緒に歌ったことがある。御希望の向きは参加してみても、心が洗われたような気分になること請け合い。またはイベントのときに出演を依頼されてはいかが。会長の吉橋さんが、実に献身的に世話をしている。会が長持ちしている所以である。ちなみに会では必ずお茶菓子が出る。

(県教育長)

2012345678913012345

「いま童謡に
あつい眼差しが」

こわせ・たまみ

童謡がブーム

人は思い出の歌を口ずさむ時、きつとその歌と共にあった、自分を取り巻いていたさまざまなことを、歌と一緒にほろ苦く思い出しながら歌います。まして、それが童謡である時、誰れもが、ものみな春の日のように暖かった、苦しささえもバスターカラーに彩られた二度と返らない幼い昔を、胸の内に描きながら歌うのです。童謡は、そんな懐しくも美しい思い出の日の扉を開く、こよなくとおしい鍵なのではないでしょうか。いま、童謡がブームといわれていますが、その多くの部分は、この懐しさに支えられているようです。しかし単に懐かしさだけではいけません。

私たちは、戦後四十数年、物質優先の坂道を登りつめに登り続けてきました。そして、いま、かつて無い程の繁栄を極め、豊かな物の時代を謳歌しています。しかし、その代償として、知らず知らずのうちに心の内にある大切な何かが、少しずつ失われていたことに気がついたのも、

またこの頃です。例えば、優しさでしようか。暖かさでしようか。どんな此細なものにも真剣に對し、大切にいとわむ心でしようか。人間同士は無難なこと、いのち有るものも無いものも、みなこの同じ宇宙の中で共に生きていくということ、いや、それらすべてによって自分が生かされているのだという、根本の思いでしようか。近頃家庭問題として、社会現象として、そこそこ吹き出してくる悲しい出来事の多くも、そんな心の喪失に原因があるのかと、何かいい知れぬ不安を実感しつつある昨今です。

そんな時、ふと思ひ起した童謡が、その喪失していた部分のさまざまなを優しく歌い、さわやかな風のように、早天の慈雨のように、心をよみ返らせてくれるものであることを、私たちは知ったのです。つまり童謡の持つ素朴さ、優しさ、暖かさ、万物肯定の美学こそ、私たちが忘れてかけていたもの、いま回復しなければと無意識に思っていたものを、強くうつつたえているものだったのです。しかも、誰れにでもわかるもの、大人も子どもも、共に感銘して歌えるものとしてあるのです。このことこそ、いま童謡にあつい眼差しが注がれる

わけに他なりません。

童謡の歴史を見る

さて、一口に童謡とは何かという点、童謡とは子どもの歌、子どもの世界を、子どもの心の躍動を、子どもにわかる言葉と音楽で表現したもので、広くは江戸時代の「わらべ唄」から、近年特に盛んになった児童合唱団で歌われている歌の数々までを包括します。そして、私たちが普通に「童謡」といつているのは、それを狭義にとらえ、大正七年に鈴木三重吉という文学者が、「世間の小さな人たちのために、芸術として真価ある純粋な童謡と童謡を創作する、最初の運動」として、「赤い鳥」という月刊雑誌を創刊した時から作られるようになった、いわゆる創作童謡を指しています。

明治は学校唱歌「赤い鳥」以前の子ども歌は何かというと、その大きな流れは明治の学校教育の中で生まれた学校唱歌です。「唱歌」という教課が置かれたのは明治五年ですが、実際に唱歌が作られ歌われるようになったのは、明治十四年、「小学唱歌集」の初編が世に出された時からです。

それ以後、沢山の学校唱歌（音楽

教科書だけでなく副読本的なものや、幼稚園で歌われた幼稚園唱歌などもあります。便宜上「学校唱歌」の名で一括します。が作られ、「赤い鳥」の童謡が生まれるまでは、大人が作った子どもの歌といえ、この学校唱歌でした。「蝶々」や「鳩ぽっぽ」「虫のこえ」から、「港」夏来ぬ「茶摘」など、みな明治に作られた学校唱歌です。

唱歌以前はわらべ唄。それでは、学校唱歌が生まれる明治以前はというと、かえるが鳴くから帰えろ」とか、「かこめかこめ、かこの中の」とかいった、遊び唄や、子もり唄などであったようです。つまり、子どもたちが生活や遊びの中から自然発生的に作って歌い継いできた歌で、これを伝承童謡とか、わらべ唄とか呼んでいます。

つまり、わらべ唄を歌っていた子どもたちの世界に、明治初年から学校唱歌が現れ、それが並列して歌われていた中に、大正七年、新しく創作童謡が現れたというわけです。

大正時代の童謡 大正七年に創刊された雑誌「赤い鳥」は大成功で、「童謡」「金の船」(後に「金の星」)など、沢山の同じような雑誌が創刊され、それらを誕生の場として沢山の

創作童謡が生まれました。「掃盤のうた」「砂山」からたちの花「かなりや」「肩たたき」「しゃばん玉」「十五夜お月さん」「七つの子」「赤情玲」「靴が鳴る」など、みなこの頃の作品です。まさに日本の芸術童謡の黄金期で、いま私たちが懐しく歌う童謡のほとんどが、この時期に作られたといっている程です。

昭和のレコード童謡 大正時代が過ぎ昭和になると、童謡も大きく変わってきます。それは、その頃よりややく量産されるようになったレコードと、大正十四年に開始されたラジオ放送により、童謡が直接「音」として家庭に入り込むようになったことによりです。

それ以前の大正童謡は、「この道」や「かなりや」が代表するように、雑誌や演奏会をコミュニケーションの手段とした、いわば文学的、芸術的なものでした。それが、レコードの商業主義に組み込まれたために、歌謡曲の子ども版化し、娯楽化されていったのです。一つの童謡が、特定の童謡歌手によって流行っていくようになったのも歌謡曲化のあらわれでしょう。「かもめの水兵さん」「可愛い魚やさん」「赤い帽子白い帽子」「おさるのかこや」などがこの頃の

歌で、一般にレコード童謡といわれています。

そして、この傾向は、太平洋戦争という歌は軍歌の時代をはさんで、戦後しばらくまで続きます。

昭和二十二年、敗戦の翌々年、早くもレコード童謡は復活しました。はじめは戦前のそれを再び使ったものでしたが、程なく、新しい童謡と童謡歌手が次々と作られ、レコード童謡は時代を席巻しました。作品には「蛙の笛」「みかんの花咲く丘」などがあります。

新しい子どもものうた しかし、昭和二十四年八月、NHKラジオで「うたのおおさん」の番組がはじまると童謡は一変しました。即ち、戦後の民主主義の考え方のもとで、子どもを発達段階に応じた人格ある人間としてとらえることにより、また幼児教育の高度の発達から、童謡がより幼児の歌になっていったのです。幼児のものであるからこその一切の無駄な修飾を取り去り、ものの原点を歌うため、この「新しい子どもものうた」は、再び詩を、芸術性を取りもどしていったのです。「めだかの学校」「かわいいかくれんば」「ぞうさん」など、この頃の作品です。

そして、テレビの放送がはじまり、

昭和三十六年、やはりNHKで「うたのおおさん」が開始されると、「うたのおおさん」の幼児童謡を引きつづ形で、新しい世代による子ども歌が作られ、童謡は幼児の歌として、再び黄金期を迎えました。「さつちやん」「あめふりくまのこ」「犬のおまわりさん」など、この番組でよく歌われた作品です。

児童合唱曲 一方、戦後の音楽教育のめざましい発展は、ある程度以上の年齢層の子どもたちにより音楽的な合唱の楽しさを教え、合唱をぬきにしては子ども歌を語れないほど、大きなウエイトをしめてきています。その歌謡は、歌う年齢層が高いために、人間の生きる原点を直接に問う、詩そのものといえるでしょう。

優れた童謡は優れた詩芸術

このように、日本の童謡は、ある時期ある時代により異なった性格を持った「子どもものうた」が参加し、それらが互いに呼応し合い、それぞれが常に新しい作品を生みながら、大きな流れとなって今日に続いています。

そして、そのカナメになる部分は、やはり詩芸術です。美しい日本語に

よって、最も究極の真理を原点を、爽やかな瞳で見すえ、人間根本を、優しく、暖かく、すべていいのちあるものを信じ、いとおしみ、共存する宇宙を歌っています。それはもう、子ども大人を超越した世界です。その意味で、優れた童謡は、また優れた詩というわけです。読んで考えることと、歌って想うことと一体化するものです。いま多くの童謡が、冒頭に述べたように心の寄り所として歌われているのは、そのためです。人間を信じ、生きるものすべてを愛する目であらえた、特に幼児の優れた歌を、一緒に歌い、また詩として子どもたちに与えてやって欲しいものです。

著者プロフィール

昭和9年埼玉県都幾川村生まれ。早大第一商学部卒。主に童謡、歌曲、合唱曲のための作詩をする。

主著、童謡集「だくとどかばか」「子どもの歌謡集」「ちいさなこもりうた」詩の絵本「じすかにしてね」「うみのにじ」、合唱組曲「城下町の子ども」など多数。

86イタリア・ローマ国際絵本コンクールにてエルバ賞受賞。

現在、日本童謡協会事務局長

「わらべうたの世界を 子どもたちにつたえたい」

道源 幸子

わらべうたと聞くと多くの人は「うりやんせ」や「すいすいすつころばし」といった曲を思い出されるときに「懐かしい」といった言葉がでてくるのではないだろうか。

私も小さい頃、両手をけんこつにして、一つ一つのげんこつをついて遊ぶ「すいすいすつころばし」を母や妹弟・近所の友達と遊んだことを思い出します。



狭山のわらべうたサークルでは、子どもにとつての音楽教育の方法としてのわらべうたを学んでいます。

狭山にわらべうたサークルが誕生して、今年で14年目になります。サークル誕生のきっかけとなったのが青柳保育園の開園でした。

48年に開園した青柳保育園は、すでに保育園や幼稚園を経験した保母が殆んどでした。その経験から、保育の中で好ましくないと考えられることをどうにか変えていきたいと話し合い、音楽教育としてはわらべうたを取り上げたのです。職員自身が受けて来た教育がピアノを弾くこと

であり、四季の行事のうたであったし子ども達の一日の生活は「おはよう」のうたから「さようなら」まで揃い、レコードによる合図で集まったりしていたのですから、それに代るものを全て考えなければならませんでした。子ども達を椅子に座らせ、元気に大きな声でうたうことを要求するのではなく、子ども達の未発達な声帯にあったうたでなおかつ遊びが伴い、乳児から幼児まで各年齢、発達にあった材料が、わらべうたの中にあったのです。

民族の伝承音楽であるわらべうたを音楽に取り入れたのがハンガリーの作曲家 コダーイ・ゾルターンという人で、このコダーイの考え方で日本にわらべうたを取り入れてシステムを作り、日本でも実践している方がいらつしやいます。そのシステムにそつてサークルでも学習していますが、サークル発足以前は、清瀬や東村山にあるサークルに通いました。それから地元でサークルをつくることで市内や近郊の保育園や幼稚園

園の人達と一緒に学び合い交流がもてるという思いから狭山にサークルをつくつたのです。発足当時は青柳の職員が殆んどでしたが、次第に公立の保育園・幼稚園の人達の参加も増えました。しかし14年の歴史の中では、会員が減つて解散寸前まで追い込まれたこともありましたが、細々と続けながらも、現在では男性4名を含め20名の会員にまで増えました。保育園・障害児の通園施設の保母・指導員が主です。

実技訓練では、キュービーや布等の道具をつかつて子ども達にうたながらみせる方法や、2人組になつて手・顔あそびを覚えます。初めは、はつきりして相手の目も見られなかつた人達が、遊びをくり返してやるうちに相手の目をみつめ、口をしつかりあけてうたえるようになり、大人自身もわらべうたの楽しさを感じとっていきます。サークルで覚えた曲を各園に持ち帰つて実践をします。

三ヶ月の赤ちゃんに布を振りながら「ジージーバー、ジージーバー、チリンポロントントンテッタ」とうたうたの最後に布を投げると、大人の口元をじつとみつめてうたを聞き、布の行方をじつと追視していると、一・二歳の乳児や障害をもつ子ども

に、顔あそびや、手あそびをしてあげると、とても喜び、もつとやうと催促する等々、大人の肉声で語りかけるようにうたつてもらふことは子どもにとつてはとても心地よいことであるし、大人と子どもと一対一、一対数人という関係が結ぶことはとてもいいことだと思います。幼児も四・五歳になると隊五を組んでク拉斯の全員が揃つて美しく遊んだり、唱和したりする喜びや満足感を感じとることが出来るようになります。

今年の秋から来年の春には小学生を対象にしたわらべうたのコーラスグループも誕生する予定です。

一・二年後には合同で発表会が出来たらいいなと思います。一人より二人、十人より百人のハーモニーに育っていくように、そして何よりも、うたい遊ぶことが好きな子ども、大人が沢山育つていけるサークルでありたいと思います。

(狭山わらべうたサークル代表)



童謡特集

今月号の特集「童謡」にちなんで、県立図書館所蔵の図書と16ミリフィルム・レコード・カセットテープの一部を紹介しつゝ、詳しくは、県立図書館合同蔵書目録をごらん下さい。

複製「赤い鳥」童謡 第1〜8巻
鈴木三吉編 ほるぶ出版 '77

童謡と童謡を創作する最初の文学運動という呼びかけで、大正7年に創刊された鈴木三吉主宰の児童雑誌。北原白秋、西条八十、三木露風等、錚錚たる詩人たちが子どもの言葉で創作童謡を、次々と発表した。赤い靴はいた女の子 菊地寛著 現代評論社 '79

「赤い靴」の少女の行方を追うドキュメンタリードラマ。著者の熱心

な追跡の旅は、札幌・函館・清水・横浜さらにアメリカにまでも及ぶ。うたの絵本 リプロボート '86

テーマ別に童謡を集めて、全12巻にまとめた楽譜つき絵本。武井武雄・初山滋・竹久夢二等による挿絵が楽しい。解題戦後日本童謡 年表 藤田圭雄 著 東京書籍 '77

昭和20年〜50年まで各年度を月別に、新刊書、人事・事項にわたり記載。ここに書かれた雑誌・図書を豊富な写真で紹介している。西条八十童謡全集 修道社 '71

「鶴鶴と時計」大正10年 赤い鳥社刊。「西条八十童謡全集」大正13年、新潮社刊。所収の童謡12篇と未刊行童謡10篇が収録されている。昭和の童謡アラカルト 戦後編 長田暁二著 きょうせい '85

戦後40年間の子ども達の歌の軌跡を、メテオの変化を中心に、作詞・作曲・歌手・演奏について、一曲一曲ていねいに解説している。童謡・唱歌の世界 金田一春彦著 主婦の友社 '78

〔熊・久〕

著名な国語学者であり、邦楽学者でもあり、又、作曲家本居長世の門下生でもあった、著者の童謡と唱歌についての論文集。さまざまな観点から、その魅力を分析している。童謡でこい 阪田寛夫著 河出書房新社 '86

明治から現代に至るまでの、なつかしい数々の童謡にかかわるエッセイ。日本童謡史 藤田圭雄著 あかね書房 '71

〔浦・熊〕

時代の彼方に埋もれてしまつていった、「赤い鳥」「金の船・金の星」「童謡」「おとぎの世界」といった大正期児童文学ルネッサンスの雑誌を渉猟して成つた童謡史の研究書。日本童謡集 与田準一編 岩波書店 (岩波文庫) '69

〔浦・熊・川・久〕

大正時代から昭和20年8月の終戦までに、発表された数多くの童謡の中から選ばれた300余篇の童謡集。日本童謡集―青い目の人形から唐獅子牡丹まで― 寺山修司編 光文社 (カッパ・ブックス) '72

〔熊〕

童謡は大人の中にふたたびよみがえることによって、人生の唄として価値を獲得するといふ著者の考えから選ばれた歌は、唱歌・童謡のみならず、CMソング・歌謡曲・軍歌にまで及んで多彩。楽譜つき。沖縄童謡集 島袋全発編 平凡社 (東洋文庫) '72

〔浦・熊・久〕

からたちの花―北原白秋童謡集― 与田準一編 新潮社 (新潮文庫) '68

〔熊〕

北原白秋―大正期童謡とその展開― 佐藤通雅著 大日本図書 '87

〔浦〕

北原白秋童謡集 藤田圭雄編 弥生書房 '76

〔川〕

現代童謡講話 西条八十著 久山社 '87 (復刻叢書日本の児童文学理論第1期 新潮社大正13年刊の複製)

〔浦〕

西条八十童謡集 西条敏子編 弥生書房 '79

〔久〕

一五夜お月さん―本居長世・人と作品― 金田一春彦編 三省堂 '82

〔浦〕

少年詩・童謡への招待 日本児童文学者協会編 偕成社 '78

県内図書館めぐり

富士見市立鶴瀬西図書館

富士見市にはじめて地域図書館が誕生しました。市内はまだ田園地帯が多く残っていますが、この鶴瀬西地区は人口密集地で駅からも近く、住宅都市整備公団(約三千七百四十人)に隣接する鶴瀬西小学校内にオープンしたものです。建物は小学生が減少し空いた三教室を改造したもので、成人コーナー・児童コーナー・和室・事務室に衣替えしました。

オープンしてから約一ヶ月半。予想を上回る利用で連日にぎわっています。小学校との協議で授業の一環としての利用と個々の利用と別にしてあり、午前中は一般の利用が中心となっていますが、放課後は小学生が熱心に本を選びまちよつとおしやべりしたりという日常風景がくりひろげられています。月一回のおはなし会も盛況で用意したプログラムが足りなくなるほどです。今まで移動図書館の利用が主でしたが、おはなし会やブックトーク等の児童サービスが不十分でしたが、これからおはなし会等に加えて予約やフ



管内奉仕人口 約一六、五〇〇人

○休館日 月・月末・祝日・年末年始・整理日

○開館時間 土・日10時～16時 火・金9時～17時

○職員数 五名(うち司書三名)

○開館一ヶ月貸出状況 延人数 三、〇三三人 延冊数 七、六五三冊

○建築面積 二八四・五八㎡

○総工費 五〇、四八六、〇〇〇円

○開館時蔵書数 一五、八〇〇冊(成人書七、七〇〇冊、児童書八、一〇〇冊)

○所在地 富士見市鶴瀬西二二二一

○電話 〇四九二・五二一五九四五

○施設概要等

アレンスサービスの実施にも努め、一日も早く地域になくてはならない図書館として成長したいと願っています。

●16ミリフィルム

ふるさとのわらべ唄

●レコード

読書グループの紹介

綾瀬会

蓮田市

近くを流れる綾瀬川の名にちなみ「綾瀬会」と名付けた私達の読書会も、発足して二十一年目を迎えました。指導者も無い家庭の主婦ばかり十名のささやかな会です。

会の記録を残そうと、文集「あゆみ」を年一回発行し続けて十九集となりました。拙い手造りの文集ですが、感想文・生活文・旅行記・短歌など一集一集の歩みと歴史を物語つてくれる貴重な宝でもあります。記憶に残る「虚構の家」「恍惚の人」など、又、川端文学を読んで訪れた鎌倉の地、そして本を読むお母さん大会で聞いた森田さんの「眠るまでは読む」の朗読の感動など忘れ難い思い出の一頁です。時には図書館主催の「著者を囲む会」へ出席し、直接作家のお話を聞き新鮮な感動に浸っています。昨年二十周年を記



(小林美由子)

決して誇れるような読書会ではありません。月一冊の文庫本が読み切れなくとも億せす例会に集まり、本題そつちのけの雑談に夢中になることもしばしばです。しかし二十一年間一回も休むことなく続いたこの綾瀬会を、生涯学習の場として「見える」うちは読む」を目標に、たゆまず負わず続けようと、会員一同意気込んでいます。

ちいさい秋みつけた―サトウハチロー ―童謡の世界― サトウハチロー 著 サンリオ出版 '74	〔熊〕	野口雨情童謡集 藤田圭雄編 弥生 書房 '76	〔浦・熊〕	現代教養文庫 '69	ダブル・デラックス 日本の抒情歌 ボーカル編	〔熊〕	日本の歌謡 1―12	〔川〕
手のひらに―手塚昭三童謡集― 日 本定形詩人会 '82	〔浦〕	ひとつ星―日高紅椿童謡集― 日本 定形詩人会 '83	〔浦〕	〔久〕	赤とんぼ 素晴らしき日本旋律集 たのしい童謡全集 1―5	〔熊〕	古き浪漫をたずねて 京琴とヴァイ オリン	〔川〕
童謡 のばら社 '80	〔久〕	一つ目小僧の歌 長谷川四郎著 青 土社 '78	〔浦〕	〔久〕	美しき日本の郷愁 ヒルデ・ギューデン 世界の子供の 歌をうたう	〔熊〕	螢の光	〔浦〕
童謡歳時記 藤田圭雄著 牧書店 '65	〔浦・熊〕	まど・みちお詩と童謡 谷悦子著 創元社 '88	〔浦・久〕	〔久〕	世界のホーム・ソング ベストシリ ーズ 1	〔川〕	わが心の詩情/カーメン・キャバレ ロ	〔浦〕
童謡さんぽ道 上・下 渋谷清視著 鳩の森書房 '79・'80	〔浦・熊〕	緑の触角 童謡・児童自由詩・教育 論集 北原白秋著 久山社 '87	〔久〕	〔久〕	NHK・みんなのうた 1―10	〔川〕	奥田良三/懐しの名唱集	〔浦〕
童謡十講 野口雨情著 久山社 '87	〔浦・久〕	〔復刻叢書日本の児童文学理論第 1期 金の星出版部大正12年刊の復 製〕	〔浦〕	〔久〕	みんなであうたおうノ ヒンボンバン 童謡パレード	〔川〕	世界こどもの歌	〔浦〕
童謡のある風景 鶴見正夫著 小学 館 '84	〔久〕	むすんでひらいて考―ルソーの夢― 海老沢敏著 岩波書店 '86	〔浦・熊・久〕	〔久〕	たのしい保育園・幼稚園のうた そ の1	〔川〕	仲よし子供の歌	〔浦〕
童謡のつくり方 サトウハチロー著 野ばら社 '63	〔久〕	夢二童謡集 竹久夢二著 ノーベル 書房 '75	〔浦・熊・久〕	〔久〕	日本の子守歌	〔川〕	●カセット・テープ	〔浦〕
日本童謡史 1・2 藤田圭雄著 あかね書房 '84	〔浦〕	ふるさとのわらべ唄	〔浦・熊・川〕	〔久〕	ママさんコーラス愛唱歌集 1	〔川〕	みんなのうたよう大全集 1―5	〔熊〕
日本童謡集―誕生から現代まで― サトウハチロー編 社会思想社	〔川・久〕	〔浦・熊・川〕	〔川〕	〔久〕	にほんのうた・心のうた 1―8	〔川〕	NHKみんなのうたよりヒット大全 集 1―5	〔熊〕

利用者の声

昭和六十三年八月、県立久喜図書館は、公開図書室の利用アンケートを行いました。その中から次の御意見にお答えします。

意見 「本の数を多くしてほしい。他の図書館と比べると、本が少ない。」「目当ての本がなかった。」

回答 県立久喜図書館の公開図書

室では、皆様が手に取って御覧になれるよう、約八万冊の本を開架しています。しかし、書庫内にも約七万冊の本があり、また、貸出中のものが常時約五千冊あります。公開図書室の本が蔵書のすべてではありません。

見当たらない本は、目録カードや合同蔵書目録で調べることができ、所蔵している本は書庫からお出しします。貸出中の本は予約することが出来ます。

また、当館で所蔵していない本については、他の図書館から取り寄せることも可能です。詳しくは、公開

図書室のカウンターで、お気軽に御相談ください。

以上のように、皆様がお捜しの本（資料）を迅速に提供できるよう、努力しておりますが、このような制度を御存じでない方々も多いようです。より多くの方々に御利用いただくよう、広報活動の充実に努めたいと存じます。貴重な御意見ありがとうございます。

編集後記

この季節、ささの葉さらさらのきばにゆれる……「たなばたさま」を懐かしく口ずさむ方も多いことで

しょう。

本号は、いま、ブームと言われている童謡にスポットをあて特集しました。

童謡界の第一線で活躍中の作家こわせたまみさんには、童謡の本質を、優しく温かい気持ちで伝える文章で、鮮明に解説していただきました。

竹内克好県教育長さんは、着任早々ご多忙中にもかかわらず「浦和童謡唱歌愛好会」連絡先 電話〇四八八八五―二九〇五 吉橋クニ子さんの活動を通して、童謡への熱いメッセージをお寄せ下さいました。

こどもたちの夢をはぐくむ場として、図書館がさらに活用されることを願って……

かのへるうた」など。

参考文献

- 童謡さんぽ道 上・下 一九八〇 鳩の森書房 渋谷清視著
- 童謡でこい 一九八六 河出書房新社 阪田寛夫著

おたすねくたさい

問 童謡には、どんな系統があるのか。その系統の童謡も示してほしい。

答 童謡の系統についての明白な区分は、確定してはいないようだが、資料によれば、おおよそ次のような系統に大別される。まず、昔から伝わる「わらべうた」の系統。「かこめかこめ」などの「あそびうた」が数多く伝わっている。

そして、昔話や伝承を元にした「伝説（伝承）童謡」の系統。

「とおりやんせ」「しょうじょう寺のためき囃子」など。

明治中期以降のいわゆる「文部省唱歌」の系統。唱歌の教科のために作られた作品である。「われは海の子」「夏は来ぬ」など。

大正七年、雑誌「赤い鳥」の創刊により、新しい童謡の創造を目指す運動が始まった。北原白秋に代表される人々により、数多くの作品が発表された。文部省唱歌への反発が、根底にあ

ったとされる。この流れをくむ系統を「芸術（創作）童謡」という。「この道」「ベチカ」など。

また、大正末期からは、童謡レコードの発売により、新たな系統が生まれた。「レコード（大衆）童謡」と呼ばれた。戦後「マスコミ童謡」と呼ばれたものは、同系統であろう。この系統の童謡は、少なからず商業主義的色彩を帯びるので、唱歌同様白秋らの批判の対象になった。「犬のおまわりさん」「おな